

サブクラスター研究 2015年度研究経過報告

『データで見る日本経済と経営』

研究代表者：坂和 秀晃（名古屋市立大学）

研究組織

- 研究メンバー

研究代表者; 坂和 秀晃

研究分担者; 程島 次郎先生・三澤 哲也先生

共同研究者; 渡辺 直樹先生(立命館大学)

山田 哲弘先生(中央大学)

研修生; 棚橋 則子さん

これらのメンバーに加えて、特別研究奨励費への応募などの活動を行うために、必要に応じてメンバーを加える構想を行っている。

本年度の研究経過

- 研究組織メンバーが多数に渡るので、メンバー内での共同研究・個人研究の遂行を通じ、研究課題の解明を図る。現時点では、以下の2点が中心の活動。

① 特別研究奨励費での研究

- 吉田 和生先生(経済学研究科)、矢野 均先生(人間文化研究科)
渡邊 裕司先生(システム自然科学研究科)を加えて、研究を構想。

② サブクラスター・ワークショップ開催(2016年2月27日)

- 研究進展状況の確認と今後の展望を行うと同時に、研究途上の論文についての成果報告を行った。

→ 特に、金融危機などの時期を含む2000年代の実証研究をどのように適切に継続するかについても、議論を行った。

研究の展望と可能性

- 日本経済・経営を巡る現状把握

- ① 世界金融危機(2007年～2009年)

- ② 東日本大震災(2011年)

- ③ 近未来(2016年～)

- Fin Tech 等の台頭による金融システム自体の転換期に入った。

- 地域金融機関の統合・持株会社化などを含めたレジームシフトの可能性がある。

- その意味では、日本の金融システム全体について、データを用いた再検討を行う意義が大きい。

金融システムについての研究成果

- 坂和秀晃・渡辺直樹

「金融自由化で日本の証券市場はどう変わったか：
市場流動性とマーケット・マイクロストラクチャー分析」
『ミネルヴァ書房』（近刊）

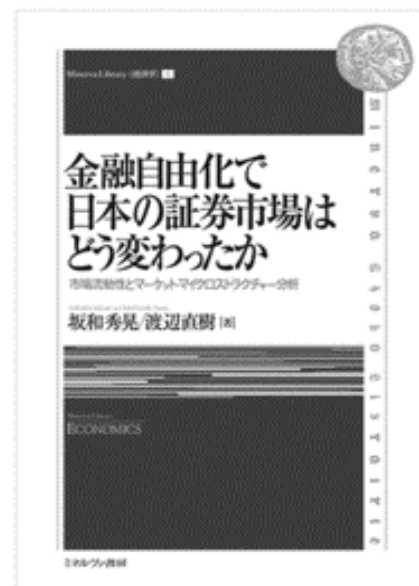
- クラスタ研究の折から継続した執筆。

本サブクラスター研究を行う分析手法等についても、
改めてまとめなおした。

- （進行中の研究例）：Sakawa, H. and Watanabel, N.

“Bank Risk-taking and The Board of Directors Role: Evidence from Japan”

- 銀行業の金融リスクについての分析を行った。



ファイナンス理論からの研究成果

- Ban Lan, Tetsuya Misawa, and Yoshio Miyahara,
“Valuation of Hong Kong REIT based on Risk Sensitive Value Measure Method”, *International Journal of Real Option and Strategy*, forthcoming.
—2005年以降、発行されるようになったHong-Kong RIETsのデータを用いて、その価値を評価した。ただし、同価値評価に関しては、Risk Sensitive Measureを用いたNPV法によって、評価を行っている。
- その他、研究に関する問題意識を共有した上での研究組織内での共同研究を試行段階である。